



しらたきじんじゃ 白瀧神社

桐生市指定無形民俗文化財(太々神楽)

住所: 桐生市川内町5-3288
TEL. 0277-32-3913 (桐生市日本遺産活用室)
駐車場あり
【車】北関東自動車道 太田桐生ICより約40分

- 京都から織物技術を伝えたという「白瀧姫」をまつ神社
- 桐生織物発祥の地として知られる神社
- 「降臨石(こうりんせき)」と呼ばれる大岩
- 樹齢300年以上と伝えられる市指定天然記念物「白瀧神社のケヤキ」
- 桐生市指定無形民俗文化財「白瀧神社太々神楽(しらたきじんだいだいから)」を奉納する神楽殿
- 桐生市から朝廷へ上った若者が和歌を通じ、身分の違いを乗り越えて白瀧姫を妻とした伝説から縁結びの御利益があるといわれる神社



降臨石



けんねんきねんかん 絹撚記念館

(旧模範工場桐生撚糸合資会社事務所棟)

桐生市重要文化財

住所: 桐生市巴町2-1832-13
TEL. 0277-44-2399
駐車場あり
【車】北関東自動車道 太田桐生ICより約25分
【徒歩】JR桐生駅南口から徒歩約5分

- 糸に撚りかける撚糸工場事務所棟(群馬県最古級の洋風石造建造物(大正6年建築))
- 全国にわずか6か所しかない「模範工場」の一つ
- 郷土資料の展示施設として公開
- 年4回開催の企画展



きりゅうしんまちじゅうでんけんちく 桐生新町重伝建地区

(桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区)

国重要伝統的建造物群保存地区

住所: 桐生市本町1丁目、2丁目、天神町の一部
TEL. 0277-32-3913 (桐生市日本遺産活用室)
【車】北関東自動車道 太田桐生ICより約25分
【徒歩】JR桐生駅北口から徒歩約20分

- 400年以上前の町立て当初からの敷地割りが残り、江戸時代後期から昭和初期にかけて建てられた絹織物関係の主屋などの歴史的建造物が立ち並ぶエリア(織物業の中心地)
- 古民家をリノベーションしたお店など、レトロな雰囲気を出し出すエリア
- 令和6年度に重伝建地区の拠点施設としてまちなか交流館が開館(本町1丁目)
- “織都桐生(しよくときりゅう)”案内人の会による観光ガイド(事前申込/有料)
お問い合わせ先: 一般社団法人 桐生市観光物産協会 TEL.0277-32-4555



桐生歴史文化資料館前



ごとうおりもの 後藤織物

国登録有形文化財

住所: 桐生市東1-11-35
TEL. 0277-45-2406
【車】北関東自動車道 太田桐生ICより約25分
【徒歩】JR桐生駅北口から徒歩約20分

- 帯地などの生産を行っていた織物工場
- 木造のノコギリ屋根工場を始めとする建物群
- 洋式染色技術を導入し、織物の改良を行うなど、桐生織物の発展に大きく貢献
- 織物の製造工程(ノコギリ屋根工場、旧釜場、倉庫など)の見学可(要事前予約)
- 多くのドラマや映画などのロケ地となっている趣ある建物



おりものさんこうかん 織物参考館紫

国登録有形文化財

住所: 桐生市東4-2-24
TEL. 0277-45-3111
駐車場あり
【車】北関東自動車道 太田桐生ICより約25分
【徒歩】JR桐生駅北口から徒歩約20分

- 旧ノコギリ屋根工場などを利用した体験型織物資料館
- 現在も稼働し、「お返し」の技術を今に伝える森秀織物株式会社が管理・運営
- 明治・大正・昭和にかけての資料(約1,200点)を展示する資料館
- 染色(藍染)や手織体験可
- ミュージアムショップにて和装小物や織物カレンダーなどを販売



きりゅうおりものきねんかん 桐生織物記念館

(桐生織物会館旧館)

国登録有形文化財

住所: 桐生市永楽町6-6
TEL. 0277-43-7272
駐車場あり
【車】北関東自動車道 太田桐生ICより約25分
【徒歩】JR桐生駅北口から徒歩約10分

- 桐生織物業界の作戦本部として、桐生織の大躍進を支え、桐生織物繁栄の中枢を担ったといえる「桐生織物同業組合」の旧事務所
- 桐生織に関する様々な資料を展示する「織物資料展示室(2階)」
- 「桐生織物販売場(1階)」にて、和装小物やネクタイなど洋装の織物製品を販売



全6構成文化財 日本遺産 桐生市内構成文化財を巡る おすすめ散策コース



(令和6年度)
桐生新町重伝建地区内に
「まちなか交流館」開館
(桐生市重伝建地区公開活用施設)

「使って、みせる建物」

建物の魅力を伝える施設として桐生新町の伝統的建造物の外観、庭の佇まい、建物の内部の見学が可能



まちなか交流館 施設案内

日本遺産 かかあ天下 —ぐんまの絹物語—

平成27年度認定

明治の文豪、徳富蘆花が随筆で「機(はた)の音、製糸の煙、桑の海」と表現した群馬県。古くから絹産業の盛んな上州(群馬県)では、女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、近代になると、製糸工女や織手としてますます活躍しました。夫(男)たちは、「おれのかかあは天下」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になるとともに、現代では内に外に活躍する女性像の代名詞ともなっています。「かかあ」たちの夢や情熱が詰まった養蚕の家々や織物の工場を訪ねることで、日本経済を、まさに天下を支えた日本の女性たちの姿が見えてきます。
※県内4市町村(桐生市・甘楽町・中之条町・片品村)にある13件の文化財から構成される「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」



日本遺産 かかあ天下—ぐんまの絹物語—ホームページ



日本遺産とは?
地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するもの

STORY

- 養蚕業
蚕を飼育し繭を作る
- 製糸業
繭から糸にする
- 織物業
糸を染め布に織り上げる